

## 律法にまざる方

(マタイ12・1〜8)

## 一、正しい先入観を持つ

66巻より成る聖書は、何を語っているのでしょうか。それは、主イエス・キリストによる救いです。と言いましても、もう少し詳しいことばが必要であると、だれもが思います。そこで、二カイヤ信条や使徒信条があるわけです。

要は、正しい先入観をもって聖書を読んで行くことが大切です。そうしませんと、聖書が語っていることが、分からないはずで、正しい先入観とは、神の御意思に添った先入観です。それは何なのでしょう。主イエス・キリストは人であり、神であられたということです。そして時々、神性(＝神としての性質)を現されたことです。

## 二、安息日の出来事

きょうのテキストに耳を傾けてまいります。1節をご覧ください。〈そのころ、イエスは安息日に麦畑を通られた。弟子たちは空腹だったので、穂を摘んで食べ始めた。〉とあります。弟子たちが麦畑から穂を摘んで食べたことは、何の問題ありませんでした。旧約聖書にも書いてあります。〈申命記23・24〉25) 律法そのものは、おおらかです。隣人のことが配慮されています。

ね。ところが、弟子たちが安息日に麦畑を通り、穂を摘んで食べ始めたので、宗教的に真面目なパリサイ人たちが主イエスに噛みついたわけです。2節です。

〈するとパリサイ人たちがそれを見て、イエスに言った。『ご覧なさい。あなたの子供たちが、安息日にしてはならないことをしています。』とあります。安息日を守ることは、古代イスラエルの時代より重要でした。安息日の教えの元になっているのは、出エジプト記20章の十戒です。そこで語られている趣旨は何でしょうか。天地創造のわざにおいて、神は六日で世界を造り、七日目に休まれ、その日を祝福されたので、あなたがたも休みなさいということですから本来は、安息日を破ったからといって罰せられたりする性格のものではないはずです。なのに、罪人である私たちは、すなわち神から離れている状態にある者は、すぐにさばいてしまうのです。今一度、2節をご覧ください。〈するとパリサイ人たちがそれを見て、イエスに言った。『ご覧なさい。あなたの子供たちが、安息日にしてはならないことをしています。』とあります。いやですね。ですが、これが神に近いと自負していたパリサイ人の姿ですし、また他人事ではありません、私共教会員が陥りやすい姿です。神が人となられた主イエスは、天の父のみこころを語られました。3節、4節、5節です。〈マ

## タイ12・3〜5) 祭司は幕屋において、安息日ごとにパンを取り替え、食べていたようです。そうであるのに、どうしてこだわるのか、と主イエスは語られました。ですがここで、主イエス・キリストが何者であったかを意識しないと、語られていることの趣旨が分からなくなり、主イエス・キリストは、ご自身を、律法を超える者、神殿を超越する者として現しておられます。すなわちここには、人間であった主イエス・キリストが、神性を現しておられるわけです。時々そのようなことをなさい

たちが語ったように、「イエスの語ったことは神への冒瀆である」となってしまう。もし福音書を読んで、「ナザレのイエスは立派な人物であった」として読むなら、福音書が語る意図を無視することになりますし、聖書をまったく誤解して読むことになります。福音書に書かれている主イエス・キリストは、神が人となられたお方であって、神ご自身であり、私たちと同じ人間でした。福音書は、単なる伝記ではないのです。

## 三、律法にまざる方

6節をご覧ください。〈あなたがたに言いますが、ここに宮よりも大いなるものがあります。〉とあります。このことばも、今し方申しましたように、主

イエスが神であり、私たちと同じ人間であったと信じて読まなかったら、耳をふさぎたくなるような、神への冒瀆です。

続いて、7節をご覧ください。〈わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。〉と、主イエスは語られました。〈咎のない者たち〉は、弟子たちのことを指しています。すなわち、「あなたがたがみことばを知っていれば、弟子たちを不義に定める(＝罪に定める)ことはしなかったでしょう」と語っているわけです。そんなことを言われて、パリサイ人たちは怒り心頭です。その先の14節には、〈パリサイ人たちは出て行って、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。〉とあります。私たちも、もし主イエス・キリストが何者であるかを捉えていなかったなら、どんなに信仰熱心であっても、真面目であっても、神の御意思から離れています。人を義と認め、罪に定めるのは神です。主イエス・キリストは、弟子たちのことを〈咎のない者たち〉と語られました。

さらに、もう一言語られました。8節です。〈人の子は安息日の主です。〉と。安息日を定められたのは神です。ゆえに主イエスは、安息日を超えるものとして、ご自身を現されました。